

国内初の耐火木造を採用した 大規模商業施設「サウスウッド」オープン

10月31日(木)、神奈川県横浜市に、国内初の耐火木造を採用した大型ショッピングモール「サウスウッド」がオープンしました。

同施設では省CO₂効果の大きい耐火集成材を採用し、国産カラマツの間伐材約2,000本を使用したため、もりのある癒やしの空間づくりを行っています。

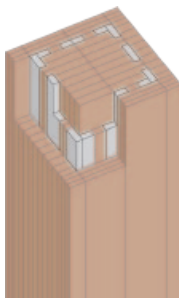
サウスウッドの建つ港北二ニュータウンは、「緑の環境を最大限に保存するまちづくり」などの基本方針を基に整備された街。駅を出てすぐのサウスウッドという「木の空間」に、この緑豊かな街の入り口をイメージして貰いたいとの願いが施設を木造化した理由だと、サウスウッドの管理運営を行う(株)横浜都市みらい・企画部の須田将幹すだまさるとしさんは言います。



施工中のサウスウッド



ガラス越しに見える柱が森を思わせるサウスウッドの外観



防火地域での木造建築を可能にした燃焼エンウッドの構造

「お客様に国産材を使った木本来のぬくもりある空間で安心してリラックスして頂き、ゆったりと時間を過ごして頂ければと考えています」と、須田さん。

また、サウスウッドは、木造部材にモルタルを挟み込んだ耐火集成材、「燃焼エンウッド」を使うことで防火地域に求められる耐火性能を確保し、木造建築を実現しました。

「燃焼エンウッドをはじめとする木質材料の積極的な活用により、健康な森林サイクルの実現に寄与し、森林の保全に貢献していきたいと考えています」と、燃焼エンウッドを開発した(株)竹中工務店の小林道和こばやしみちかずさん。

今後、サウスウッドに続き、都市の風景の中により多くの木造建築が取り入れられていくことが期待されます。

お問い合わせ 株式会社 横浜都市みらい サウスウッド営業事務室 ☎045-530-3688

ホームページ <http://southwood-ytmirai.com/>

内装に国産材を採用した寝台列車 「ななつ星 in 九州」運行開始

10月15日(火)、九州を一周する寝台列車「ななつ星 in 九州」の運行が開始されました。

「日本版オリエント急行」として、九州の新たな観光のシンボルとなることを目指した車両の内装には、ヒノキやサクラなどの国産材がふんだんに使われ、高級感を演出しています。

ななつ星 in 九州は、九州各地の自然・食・温泉・歴史などを楽しむことを目的に運行している観光寝台列車。1泊2日と3泊4日の2コースで九州の観光地を巡ります。

通常の特急列車の2倍にあたる約30億円の製造費をかけて作られた車両は、客車7両と機関車の1編成。「古代漆」をイメージした濃いワインレッドの外観が印象的です。



ヒノキやサクラなど国産材をふんだんに使用し、「和」を演出した内装。

内装の多くに木材が使われており、国産材のヒノキやサクラに加え、家具職人による組子細工や有田焼の洗面鉢などが、高級感のある「和」を演出し、床や壁、天井からは、木の香りが感じられます。

「木は人間の体温を護り、心を癒やしてくれるもの。懐かしくて落ち着く寝台列車の雰囲気づくりには欠かせません」と語るのは、車両デザインを担当した水戸岡鋭治みとおかえいじさん。木材を使用した鉄道車両の内装には、金属や樹脂よりも多くの手間やコストが必要とされますが、完成した車両にはそうした投資を超えた商品価値があるといいます。日本古来の木の文化を活かした、豊かな「和」の空間を世界の人に楽しんで欲しいとのこと。



「ななつ星」の名前は、九州の7県や7両編成の客車などをイメージしています。

お問い合わせ JR九州 クルーズトレインツアーデスク ☎0570-550-779(水曜日・日曜日・祝日休業)

ホームページ <http://www.cruisetrain-sevenstars.jp/index.html>